

CASBEE-建築(新築)2016年版 鳥取市新本庁舎		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)				
スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								4.0
Q1 室内環境					0.40		-	3.9
1 音環境				4.0	0.15		-	4.0
1.1 室内騒音レベル		一般事務室としての性能確保を目標とする		4.0	0.40	3.9	-	
1.2 遮音				4.2	0.40		-	
1 開口部遮音性能		高性能サッシ及び複層ガラスによりT2以上を基本とする		5.0	0.60	5.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				4.0	-	4.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				4.0	-	4.0	-	
1.3 吸音		床:タイルカーペット、天井:吸音用あなきせつこうボード・岩綿吸音		4.0	0.20	3.9	-	
2 温熱環境				3.7	0.35		-	3.7
2.1 室温制御				3.2	0.50		-	
1 室温				3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		快適な執務空間を確保する外皮性能を確保		4.0	0.25	3.9	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.37		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		床吹出空調の採用(執務エリアの主空調方式)		5.0	0.30	3.9	-	
3 光・視環境				3.6	0.25		-	3.6
3.1 屋光利用				3.8	0.31		-	
1 屋光率				3.0	0.59	3.0	-	
2 方位別開口					-		-	
3 屋光利用設備		ライトシェルフ及びトップライトを備えたエコボイド		5.0	0.41	3.9	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.29		-	
1 屋光制御		庇及びブラインドを設置		4.0	1.00	3.9	-	
3.3 照度		全館照明で750lx		4.0	0.15	3.9	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.9	-	
4 空気質環境				4.5	0.25		-	4.5
4.1 発生源対策				5.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全般的に採用		5.0	1.00	3.9	-	
4.2 換気				3.3	0.30		-	
1 換気量		1人当たり30m3/hの新鮮外気を導入		4.0	0.34	3.9	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.9	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.34	3.9	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		執務エリアはCO ₂ 濃度を測定(導入外気量の適正化制御)		5.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.9
1 機能性				3.9	0.40		-	3.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40		-	
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.9	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.9	-	
3 バリアフリー計画		適合基準に準拠(適合認定取得)		4.0	0.35		-	
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30		-	
1 広さ感・景観		天井高2.7m以上かつ南面北面に開けた窓		4.0	0.33	3.9	-	
2 リフレッシュスペース		4.5階西面に配置、1・7階に自販機設置		5.0	0.33		-	
3 内装計画		要所に地元産材をはじめとした木材・和紙等の内装を計画		5.0	0.34		-	
1.3 維持管理				4.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		外周にメンテナンス用バルコニーを設置、高耐久性の外装仕上げ		4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		洗濯機置き場や洗い場を備えた清掃員控室を計画		4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				4.0	0.30		-	4.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				4.2	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		市民交流部分は重要度係数1.25		4.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		庁舎部分は免震構造		5.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		100年を目標		4.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクト、厨房排気ダクト、給湯・湯沸排気ダクトにガルバリウム鋼板採用		5.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水に塩ビライニング鋼管、排水通気に塩化ビニル管、冷温水配管に配管用炭素鋼管(白)		5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				4.2	0.20		-	
1 空調・換気設備		重要系統の換気、空調は個別方式とし非常用発電機回路、中央熱源系統は電気+ガスのミックス熱源		5.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		節水器具の採用、緊急用汚水貯留槽の設置、雨水利用、受水槽に緊急水栓設置		5.0	0.20		-	
3 電気設備				3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		通信の多様化、浸水配慮、災害時通信設備対策、ケーブルテレビ対		5.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	基準階高3.9m	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	両端コアのオープンオフィス	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	仕上壁内に配管敷設し、仕上材を痛めることなく配線更新可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上壁内に配管敷設し、仕上材を痛めることなく配線更新可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	在来種、地盤産材を使い、利用しやすいスペースを計画	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	庇と緑、デッキスペースにより、うるおいある空間を創出	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.1	0.19	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			4.4	0.50	-	-	4.4
[BEI][BEIm] = 0.66			4.0	0.20	-	-	4.0
4 効率的運用			4.0	1.00	-	-	
集合住宅以外の評価			4.0	0.50	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSにより用途別のエネルギー消費傾向、熱源COPの評価可能	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		4.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.2
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水性便器の採用			3.7	0.60	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.70	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水の雑用水利用	3.0	0.30	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		4.6	0.60	-	-	4.6
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.13	-	-	
2.1	材料使用量の削減		-	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		5.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	電炉鋼材	5.0	0.25	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ボード:天井、ビニル床材:床、タイルカーペット:床	4.0	0.13	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	県産材使用	5.0	0.25	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	主にSRC柱梁+乾式壁により分別可能、ユニットシャワー等採用	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.5	0.20	-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30	-	-	
対象物質を含まない塗り床材の使用			3.3	0.70	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.33	-	-	
1	消火剤	サーバ室に不活性ガス消火設備(N2)設置	3.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			4.0	0.33	-	-	4.0
LCCO2を一般的な建物に比べて削減			3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			3.0	0.25	-	-	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.50	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.7	0.25	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	流出抑制の指導はないが一部を貯留	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		5.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐輪場・駐車場を確保	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	0.30	-	-	
3	日照障害の抑制		4.7	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制			5.0	0.70	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告を設けず、屋外照明についても棟間で使用している	4.0	0.30	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	南面についてはライトシェルフ・庇、東西面についてはルーバーの設					